

市立幼稚園・保育所のあり方検討について

1 市立幼稚園・保育所のあり方検討にあたって

平成 27 年 4 月から施行された「子ども・子育て支援新制度」は、わが国の人口減少と少子化に歯止めをかける施策として期待されています。

新制度で戦略的に取り組む施策としては、「幼児期における質の高い学校教育・保育の提供」、「待機児童の解消」、「地域での子育て支援」があげられており、その実現のために期待されているのが、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設である「認定こども園」です。

このような背景を受けて、本市では、市立幼稚園・保育所で実践されてきたこれまでの教育・保育の質を確保しながら、「教育・保育の提供」と「待機児童の解消」を図るとともに、子ども・子育て支援の地域的な拠点としての「地域での子育て支援」機能を強化するため、公立の就学前教育・保育施設のあり方の戦略的な見直しに取り組むこととします。

子ども・子育て支援新制度にかかるさまざまな施策展開については、富田林市子ども・子育て支援事業計画に位置づけられており、サービスの提供量がニーズ量の見込みと同程度、もしくはそれを上回る予測となっていることから、現状の提供体制を維持することで、ニーズに応えることができるとしています。

しかし、市立幼稚園の入園児童数は年々減少しており、施設のキャパシティとのバランスを考えると、ニーズ量に対する提供量が過多と言えます。

一方で、保育ニーズに対するサービス提供量は、弾力的な受け入れにより対応していますが、新制度施行による保育需要の高まりからか、年度当初の待機児童が、今年度 10 年ぶりに発生し、年間を通して認可定数内での保育という理想形には至っていません。

本資料は、現行の市立幼稚園と保育所のあり方を再検討し、よりニーズに対応した施設の再編整備についての現在の考え方をまとめるために作成しました。

2 現状と課題

(1) 乳幼児人口の推移

平成 21 年以降の乳幼児人口（0 歳～5 歳）の推移をみると、平成 21 年 4 月は 5,456 人でしたが、平成 28 年 4 月に 4,876 人と、580 人（10.6%）減少しています。この間、平成 24 年 4 月に減少率がいったん鈍化しましたが、平成 26 年 4 月に再び大きく減少に転じました。平成 27 年は 0 歳児が 49 人増加したこともあって、ほぼ前年並みの就学前人口となりましたが、平成 28 年度は減少に転じています。

減少率は年によって、また地域によって大きく異なる状況ですが、その要因としては住宅開発が考えられます。

今後も、基調として人口が減少する傾向が続くと考えられ、『子ども・子育て支援事業計画』では今後 5 年間（平成 26 年と平成 31 年の比較）の就学前人口が約

12.6%減少する予測です。

表 1：就学前児童数の推移と将来予測（各年度 4 月 1 日現在）（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
0 歳	799	810	809	822	763	708	757
1 歳	869	820	861	854	863	810	762
2 歳	888	877	809	870	860	857	827
3 歳	948	886	886	823	886	862	841
4 歳	970	949	874	918	823	882	878
5 歳	982	968	948	892	927	833	876
計	5,456	5,310	5,187	5,179	5,122	4,952	4,941

	H28	H29	H30	H31	H26/H31 比
0 歳	698(721)	671	647	624	88.1%
1 歳	759(793)	736	707	681	84.1%
2 歳	751(786)	762	739	710	82.8%
3 歳	824(841)	761	772	749	86.9%
4 歳	877(855)	833	770	781	88.5%
5 歳	883(880)	889	845	781	93.8%
計	4,792(4,876)	4,652	4,480	4,326	87.4%

（将来予測：『子ども・子育て支援事業計画』）

* H28（ ）内は実績数を記載

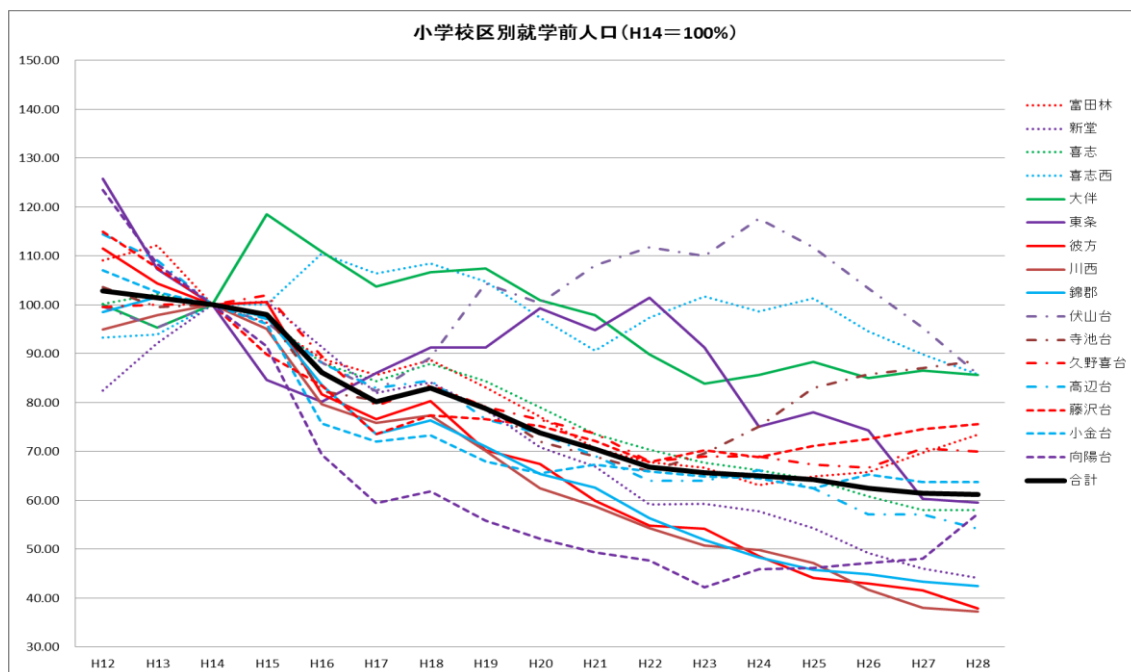


図 1：平成 14 年を 100%とした小学校区別就学前児童数の推移

(2) 幼稚園と保育所の現状と課題

① 幼稚園

市内には、市立幼稚園 13 園（うち 2 園は休園）と私立幼稚園 6 園があります。

市立幼稚園の総定員は 2,100 人、園児数は、平成 21 年は 621 人、平成 28 年は 350 人となっており、この間に約 44%減少しています。また、定員に対する充足率は、約 30%から約 17%にまで低下しています。

幼児人口に対する比率では、平成 21 年度は 4 歳児で約 31%、5 歳児で約 33%でしたが、平成 28 年度では 4 歳児で約 17%、5 歳児で約 23%となっています。

これは、社会経済状況の変化や労働形態の多様化などにより就労する保護者が増えたことで、幼稚園から保育所へニーズが移行したことによると考えられます。

なお、私立幼稚園は全園で 3 年保育を実施しており、定員 2,090 人に対して園児数が平成 21 年度 1,198 人、平成 28 年度 1,201 人とほぼ横ばいで、充足率は約 57%となっています。（この人数には市外からの通園児が含まれています。）

就学前人口が減少傾向にある中で、私立幼稚園の在園児数が大きく変わらないという事実は、保護者のニーズの変化に対応するために預かり時間を延長するなど運営面で工夫された結果であると考えられます。

市立幼稚園の園児数が減少することは、学級数の減少を伴い、園の小規模化につながります。園児数が少ないと、一人ひとりに教員の目が行き届きやすく、きめ細かな指導ができるという利点がありますが、同年齢の集団での遊びや人間関係の固定化という可能性があり、将来の社会性や協調性の醸成に不安が残ります。

表 2：市立幼稚園別在園児数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

（単位：人）

	定数	4 歳	5 歳	計
富田林幼稚園	160	11	21	32
新堂幼稚園	180	9	13	22
喜志幼稚園	160	10	15	25
大伴幼稚園	160	24	26	50
板持幼稚園(休園)	80	—	—	—
彼方幼稚園	120	10	12	22
錦郡幼稚園	120	10	9	19
川西幼稚園	160	18	16	34
東条幼稚園(休園)	80	—	—	—
青葉丘幼稚園	280	10	20	30
伏山台幼稚園	240	17	16	33
喜志西幼稚園	120	3	8	11
津々山台幼稚園	240	28	44	72
計	2,100	150	200	350

表 3：幼稚園在園児数の推移（各年度 5 月 1 日現在）

（単位：人）

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
公立	4 歳	296	266	248	244	199	188	195	150
	5 歳	325	312	267	261	254	213	196	200
	計	621	578	515	505	453	401	391	350
私立	3 歳	386	336	413	363	383	397	404	384
	4 歳	413	439	350	424	367	416	401	417
	5 歳	399	402	440	352	416	367	411	400
	計	1,198	1,177	1,203	1,139	1,166	1,180	1,216	1,201

* 私立幼稚園在園児には他市町村からの通園児童を含む。

②保育所

保育所の入所希望者は、就労する（就労を希望する）保護者の増加や、ライフスタイル、働き方の変化などの要因により年々増加しています。

これらのニーズに対応するために、新たな保育所の誘致や定数の見直し、弾力的な児童の受け入れなどを進めた結果、平成 18 年から 27 年は年度当初の待機児童は解消しましたが、平成 28 年度当初は待機児童が発生しました。また、年度途中に 0 歳児を中心に低年齢児の待機児童が発生する状況が続いています。

公・民あわせた認可保育所の定員は、平成 28 年度は 1,696 人で、5 月時点の充足率は 103.9%となっており、弾力的運用によってニーズに応えている状況です。

乳幼児人口に対する比率では、平成 21 年度は 0 歳児約 26%、1 歳児約 27%、2 歳児約 36%、3 歳児約 34%、4 歳児約 35%、5 歳児約 33%、でした。平成 27 年度はそれぞれ約 24%、36%、40%、40%、38%、38%となっています。（各年度の 3 月 1 日現在）

なお、最近の傾向としては、年度内に待機児童が発生する地域は、喜志地区、金剛地区、金剛東地区に多く見られます。

表 4：市立保育所別在園児数（平成 28 年 3 月 1 日現在）

（単位：人）

	定数	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
富田林保育園	60	4	7	14	13	17	14	69
彼方保育園	90	10	15	18	17	22	19	101
大伴保育園	100	8	15	18	15	19	22	97
若葉保育園	90	10	15	17	22	19	24	107
金剛保育園	240	24	31	37	46	45	57	240
金剛東保育園	90	10	15	18	22	23	24	112
計	670	66	98	122	135	145	160	726

* 他市町村からの受託児童は含まない。

表 5：保育所在園児数の推移（各年度 3 月 1 日現在）（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
0 歳	204	200	187	204	198	174	179
1 歳	238	275	277	270	264	285	273
2 歳	321	286	309	317	313	328	329
3 歳	321	346	334	327	323	332	339
4 歳	337	314	344	337	333	343	333
5 歳	322	340	317	348	344	315	335
計	1,743	1,761	1,768	1,803	1,775	1,777	1,788

表 6：保育所待機児童数の内訳（各年度 3 月 1 日現在）（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
0 歳	20	25	36	47	23	23	39
1 歳	0	4	21	18	24	25	0
2 歳	4	0	3	22	6	5	15
3 歳以上	0	0	0	0	0	0	0
計	24	29	60	87	53	53	54

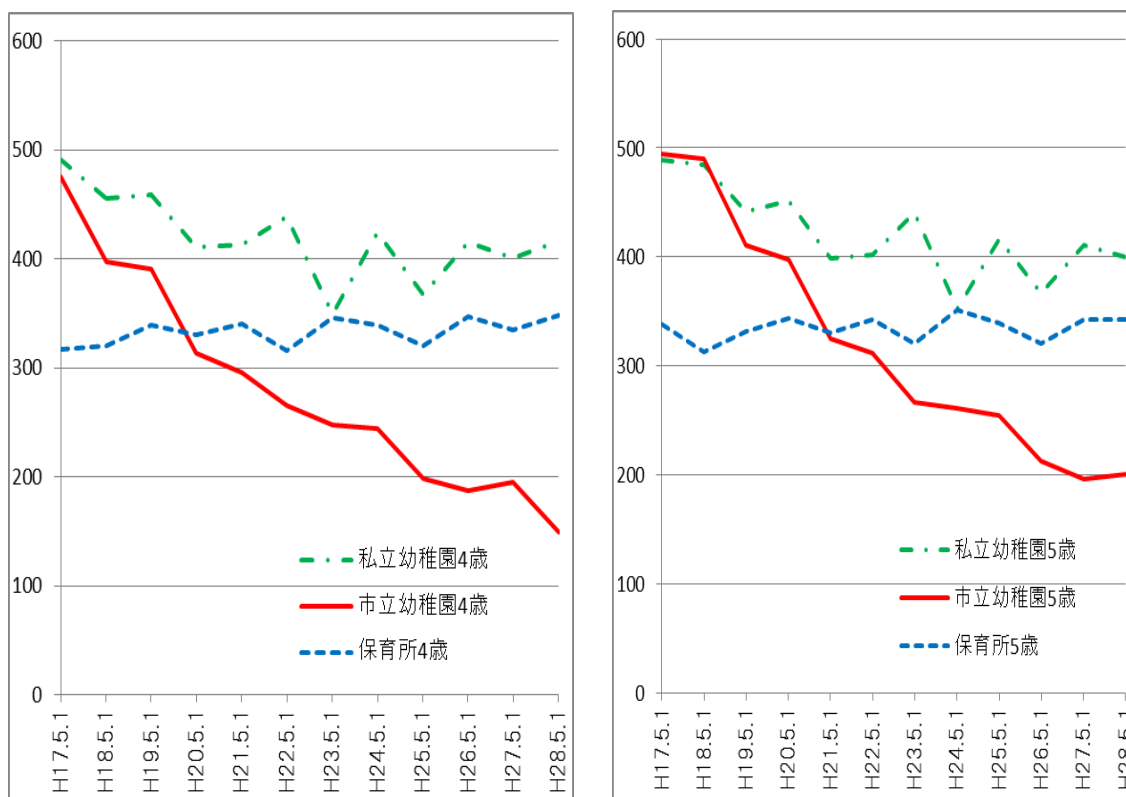


図 2：幼稚園・保育所の 4・5 歳児在園児数（各年 5 月 1 日）

表 7：幼稚園・保育所等（1～3号認定）のニーズ量の見込みと実績（単位：人）

	実績		見込み				
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
幼稚園（3歳以上）	1,367	1,327	1,407 (1,351)	1,381 (1,312)	1,326	1,275	1,234
保育所（3歳以上）	1,006	997	1,078 (1,022)	1,058	1,016	977	946
保育所（1・2歳）	602	611	672 (608)	650	645	640	599
保育所（0歳）	186	176	220 (181)	217	211	207	203
保育所計	1,794	1,784	1,970 (1,811)	1,925	1,872	1,824	1,748

*実績は、幼稚園／学校統計（各年度 5/1）。市内私立幼稚園在園児童数－市外在住の通園者数＋市内在住の市外園への通園者数、（市立、私立合計）。

保育所／認可保育所児童数（各年度 3/1）

*H27、H28（ ）内は実績数を記載

（3）教育と保育を担う職員の現状と課題

市立幼稚園の基本的な教員配置は、園長・園長代理のほか、クラス担任1人と担任外1人の配置となっており、現在配置されている教諭は、管理職を含め37人です。育児休暇等の代替や子育て支援及び、障がい児対応の職員は講師で配置しています。

市立保育所の保育士配置は、園長・園長代理のほか、国基準に準拠した配置基準としていますが、1歳児については市独自基準として児童5人に対して保育士1人の配置としています。現在配置されている保育士は、管理職を含め94人となっており、配置基準に満たない数や障がい児加配は嘱託職員を配置しています。育児休暇取得中の代替保育士は、アルバイト職員で配置されています。

いずれの職種も、これまで定期的な採用がされておらず、必要に応じて採用資格試験が実施されてきました。また、試験を受験できる年齢幅が限定されてきたこともあり、職員の年齢構成は大きな偏りが見られます。たとえば、現在43歳前後の保育士が全保育士の2割を占めていますが、これは、金剛東保育園を開設するにあたって平成5年に採用された職員です。

その他の職員としては、幼稚園には園務員や肢体不自由児の介助職員をアルバイトで配置しており、保育所には、保健師、園務員、給食調理員を原則として正職（一部、嘱託またはアルバイト）で配置しています。

* 嘱託又は講師とは、市で定める非常勤職員です。

* アルバイトとは、市で定める臨時的任用職員です。

* 保育所における配置基準

	国基準	市基準
0歳	3 : 1	3 : 1
1歳	6 : 1	5 : 1
2歳	6 : 1	6 : 1
3歳	20 : 1	20 : 1
4歳	30 : 1	30 : 1
5歳	30 : 1	30 : 1

表 8 : 市立幼稚園・保育所別職員数（平成 28 年 4 月 1 日現在）（単位：人）

		園長	代 理	教諭・ 保育士	そ の 他 の 職 種	正職計	講師・ 嘱託等	アルバ イト
幼稚園	富田林	1	0	2(0)	0	3	1(0)	2
	新堂	嘱 1	1	2(0)	0	3	2(0)	3
	喜志	1	1	2(0)	0	4	1(0)	2
	喜志西	1	0	3(1)	0	4	0(0)	3
	大伴	嘱 1	1	1(0)	0	2	2(0)	2
	彼方	1	0	2(0)	0	3	1(0)	3
	錦郡	1	0	2(0)	0	3	1(0)	3
	川西	嘱 1	1	3(0)	0	4	0(0)	3
	青葉丘	1	1	2(0)	0	4	1(0)	3
	伏山台	1	0	1(0)	0	2	2(0)	3
	津々山台	嘱 1	1	4(0)	0	5	2(0)	5
計	7 嘱 4	6	24(1)	0	37	13(0)	32	
保育所	富田林	1	0	10(1)	5	16	3(0)	4
	彼方	1	1	12(2)	4	18	5(0)	6
	大伴	1	1	11(2)	4	17	5(0)	7
	若葉	1	1	13(2)	5	20	5(0)	11
	金剛	1	1	25(4)	9	36	14(0)	11
	金剛東	1	1	12(3)	4	18	5(0)	6
計	6	5	83(14)	31	125	37(0)	45	
幼・保計	13 嘱 4	11	102(15)	31	162	50(0)	77	

* () 育休等再掲

* 保育所時間外嘱託保育士除く

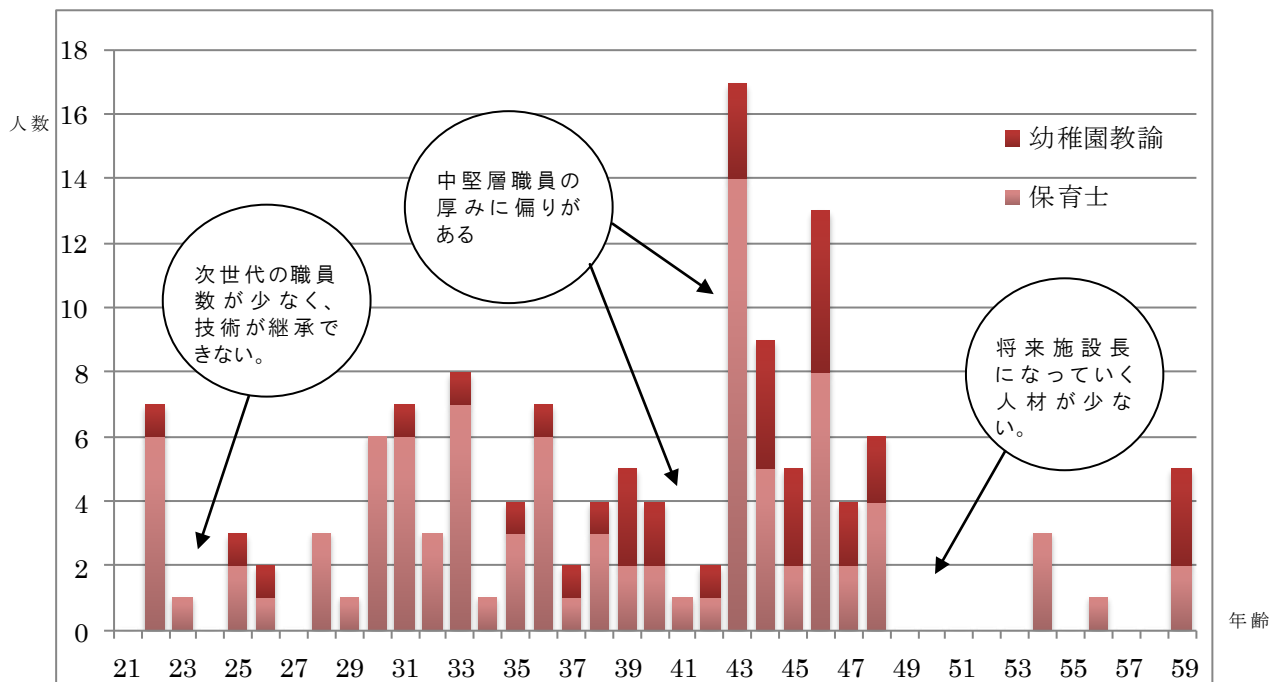


図3：幼稚園教諭・保育所保育士の年齢別職員数（嘱託除く）

（4）幼稚園・保育所運営にかかる経費の現状と課題

幼稚園と保育所はその成り立ちや事業の目的が異なるため、事業遂行にかかる経費を単純に比較することはできませんが、保育時間や職員の配置基準の違い、給食の有無などにより大きな差があります。

本市では、市立幼稚園に関する歳出として、教諭の人件費（給与、職員手当、共済費）のほか、幼稚園管理事業（需用費、役務費、委託料、使用料、工事請負費等）、園児日本スポーツ振興センター事務（負担金）、園児健診事業（報償費、委託料等）、就園奨励事業、肢体不自由児等就学事業（賃金等）、講師配置事業（報酬）などがあり、その総額は393,352千円です。この中で人件費は272,349千円で、全体の69.2%を占めています。また、富田林幼稚園の敷地使用料6,706千円が含まれています。

歳入としては、利用者負担である使用料収入が38,288千円となっています。

市立保育所に関する歳出としては、職員人件費、保育所一般事務、保育所職員研修事業（報償費、需用費、負担金等）、保育所整備事業（工事請負費、備品購入費）があり、その総額は1,369,390千円です。うち人件費は765,037千円で、全体の55.9%を占めており、幼稚園と比べて人件費の比率が低くなっています。

歳入としては、利用者負担である負担金収入が127,549千円となっています。

幼稚園、保育所それぞれの在園児童1人あたりの平均額は、幼稚園95.1千円、保育所185.4千円の収入に対して、歳出では、幼稚園981千円、保育所1,990千円となっています。

幼稚園に比べて保育所に経費が必要なのは、乳児を受け入れていることや給食を提供していること、保育時間が長時間であることに起因します。

また、歳出に対する歳入の比率は、幼稚園が9.7%に対して保育所は9.3%とほ

ば同じです。

表 9：市立幼稚園・保育所別施設管理費（平成 26 年決算）（単位：千円）

		需用費	役務費	委託料	使用料	原材料	備品	計
幼稚園	富田林	1,291	31	0	6,722	28	188	8,260
	新堂	1,216	38	0	17	30	190	1,491
	喜志	253	32	0	29	28	176	518
	喜志西	972	24	0	16	20	166	1,198
	大伴	756	30	0	14	15	189	1,004
	彼方	561	19	0	27	12	193	812
	錦郡	808	23	0	24	25	161	1,396
	川西	1,109	32	0	23	42	190	1,500
	青葉丘	1,243	20	58	17	25	137	1,501
	伏山台	225	31	0	17	37	192	502
	津々山台	1,242	40	0	39	26	206	1,553
計	9,676	320	58	6,945	288	1,988	19,275	
保育所	富田林	3,774	245	570	9	22	46	4,667
	彼方	13,626	249	1,235	18	22	144	15,294
	大伴	13,953	424	1,341	13	37	166	15,934
	若葉	15,905	246	932	16	34	36	17,169
	金剛	31,800	544	2,226	27	89	219	34,905
	金剛東	15,128	298	882	14	34	64	16,420
	計	94,186	2,006	7,186	97	238	675	104,388

* 園児健診にかかる報償費等、日本スポーツ振興センター負担金を除く。

* 幼稚園就園奨励費、園舎改修工事費・樹木管理委託料等は除く。

表 10：市立幼稚園・保育所別人件費等（平成 26 年度決算）（単位：千円）

		職員人件費	嘱託等賃金	アルバイト賃金	計
幼稚園	富田林	25,805	2,624	2,831	31,260
	新堂	21,832	5,248	2,831	29,911
	喜志	25,658	5,248	2,831	33,737
	喜志西	24,272	2,624	2,831	29,727
	大伴	25,851	5,248	4,251	35,350
	彼方	32,773	0	2,831	35,604
	錦郡	24,305	2,624	2,831	29,760
	川西	17,524	5,248	2,831	25,603
	青葉丘	23,967	2,624	2,831	29,422
	伏山台	24,468	2,624	2,831	29,923
	津々山台	25,894	5,248	5,671	36,813
	計	272,349	39,360	35,401	347,110
保育所	富田林	116,563	11,034	6,591	134,188
	彼方	100,291	24,646	7,106	132,043
	大伴	107,019	22,500	8,249	137,768
	若葉	116,986	20,924	12,924	150,834
	金剛	209,966	36,337	30,039	276,342
	金剛東	114,212	23,602	8,538	146,352
	計	765,037	139,043	73,447	977,527
幼・保計	1,037,386	178,403	108,848	1,324,637	

表 11：平成 26 年度決算での幼稚園と保育所の事業経費比較

[歳入]	利用者負担	園児数	園児 1 人あたり
幼稚園	38,288 千円	401 人	95.1 千円
保育所	127,549 千円	688 人	185.4 千円

[歳出]	職員人件費	物件費・補助費	総計	園児 1 人あたり
幼稚園	272,349 千円	121,003 千円	393,352 千円	981 千円
	(69.2%)	(30.8%)	(100.0%)	
保育所	765,037 千円	604,353 千円	1,369,390 千円	1,990 千円
	(55.9%)	(44.1%)	(100.0%)	

* 公債費を除く。

(5) 家庭や地域での子育ての現状と課題

本市では、在宅で子育てをしている3歳未満の子どもがいる家庭、あるいはこれから出産を控えた妊婦のいる家庭を、保育所の保育士が定期的に個別訪問する事業を平成24年度からスタートし、出産育児に関する情報提供、個別の悩み相談などを行っています。

また、幼稚園、保育所では園庭開放や講座の開催、地域子育て支援拠点（つどいの広場、子育て支援センター）など子育てに関わるさまざまな機関でも各種のイベント、セミナーを開催し、地域での子育てを支援しています。

地域子育て支援拠点事業の参加者数（親子の総数）は、この数年34,000人程度で人口が減少傾向にある中ほぼ一定で推移する様相が見られます。

3歳未満の乳幼児がいる家庭の70～80%では、母親が在宅で子育てに専念していると言われていますが、核家族化が進み、地域での人と人とのつながりや、世代を超えた人間関係が希薄化し、コミュニティの中で子育てするという意識が失われつつあります。そのため、本来は、家庭や地域で身につけていくことが望ましいと考えられてきた基本的な生活習慣が身につけていない子どもが増加している要因の一つになっているという考えもあります。また、保護者の育児ノイローゼや孤立感、児童への虐待といった課題も増加しています。

多くの子どもにとって、初めて集団で生活する場が幼稚園や保育所ですが、基本的な生活習慣が身につけていない中では、集団生活へのとまどいや、同年齢、異年齢の子どもと関わるのが苦手、教員や保育士の話を聴かない、自分勝手な行動に走るといった課題とも強く結びつきます。

表 12：地域子育て支援拠点事業の参加数（各年度延べ人数）（単位：人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
ほっとひろば ふらっと（金剛）	8,073	8,073	7,893	8,501	6,227	7,425	6,941
ほっとひろば すばるホール	3,217	4,197	3,539	5,117	4,815	4,282	4,186
ほっとひろば レインボーホール	3,154	3,527	4,271	5,257	4,351	4,699	4,720
ほっとひろば かがりの郷	3,273	3,184	3,539	4,755	3,719	3,943	4,587
すこやかひろば 須賀	3,571	3,694	3,426	4,296	5,043	4,654	5,014
すこやかひろば けあばる	308	—	—	—	—	—	—
すこやかひろば 楠風台	680	—	—	—	—	—	—
すこやか出張 ひろば 東条	—	1,170	1,052	1,140	1,158	854	1,055
ひだまり	1,305	2,605	2,916	2,769	3,228	2,305	2,452
小 計	23,581	26,450	26,636	31,835	28,541	28,162	28,955
富貴の里保育園 子育て支援セン ター	3,992	3,623	3,450	3,670	3,357	4,043	3,594
梅の里保育園 子育て支援セン ター	2,071	4,046	3,870	2,863	2,525	2,042	1,678
小 計	6,063	7,669	7,320	6,533	5,882	6,085	5,272
利用者合計	29,644	34,119	33,956	38,368	34,423	34,247	34,227

3 市立幼稚園・保育所のあり方についての基本的な考え方

近年、社会情勢が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て力が低下しつつあると指摘されています。

乳幼児期の教育と保育は、子どもが集団生活の中で健やかに育ち、生涯にわたる人格形成の基礎を養うために重要な存在です。

保護者の多様なニーズに的確に対応しながら、子どもの健やかな育ちと学びの連続性を保障していくために、乳幼児期の教育や保育のあり方が問われています。

本市では、多くの大都市近郊自治体と同様に、市立幼稚園の園児数が減少する一方で、保護者の就労形態の多様化、ひとり親世帯の増加などに伴う保育所利用希望の増加が見られます。

また、平成 27 年度から子ども子育て支援新制度がスタートし、保護者の就労の有無といった家庭状況の違いを超えて、幼稚園・保育所が従来の枠組みに捉われないサービス提供が求められています。

このような状況にあって、本市では、子どもの利益を第一に考え、子どもに対する質の高い教育・保育の提供を行うとともに、保護者や地域の子育て力の向上に向けた支援を実施するため、市立の幼稚園・保育所のあり方を根本から見直し、事業の効果的な整備充実を進めるものとします。

また、幼稚園と保育所がこれまで培ってきた教育・保育に関する技能と知識の集積や、双方の良さを活かしながら、子ども一人ひとりの育ちと発達段階に応じた質の高い教育・保育を提供し、生涯にわたる人格形成の基礎を培うこととします。さらに、保護者や地域の子育て力が高まるよう、引き続き家庭訪問事業を継続し、子育て支援のネットワークを構成してきた関係機関と連携しながら、子育て家庭に対する支援を充実します。

4 市立幼稚園・保育所の現状

富田林市の人口分布や住民の生活圏域に応じて、市域を 4 分割し分析します。市域分割については、平成 22 年 9 月に策定された富田林市立保育所民営化基本方針においても北部、南東部、金剛、金剛東の 4 地域に分割し、それぞれ 1 か所の公立保育所を、子育て支援のネットワークの中心施設と位置付けています。

(1) 北部ブロック〔喜志、喜志西、新堂、富田林小学校区〕

①現状

- ・北部ブロックには市立幼稚園 4 園、市立保育所 2 園のほか、私立幼稚園 1 園、民間保育所 4 園が立地します。
- ・施設の利用状況としては、喜志西幼稚園を除く 3 幼稚園には、保育室として整備し現在は会議室、絵本の部屋などに利用されている部屋が複数あり、喜志西幼稚園にも 1 室あります。また、富田林幼稚園の 1 室は第 1 幼児教育センターとして利用されています。保育所については、保育室から他用途に転用した部屋はありません。
- ・待機児童の発生状況などから、喜志・喜志西小学校区は保育需要が比較的高い地域と考えられます。
- ・市立幼稚園の利用は減少傾向にあり、特に喜志西幼稚園は、平成 28 年度在園児数は 4 歳児 3 人、5 歳児 8 人と非常に少なく、校区内の乳幼児人口から勘案すると、幼稚園ニーズは私学志向が比較的高いものと考えられます。
- ・富田林幼稚園の用地は借地で、年約 670 万円の使用料が支払われています。
- ・富田林保育園には駐車場がなく、近隣の市営東駐車場を利用する必要がありますが、雨天時などは満車状態であり送迎に支障をきたすことがあります。

表 13：北部ブロック内の教育・保育施設

	幼稚園	保育所
市立	富田林・新堂・喜志・喜志西	富田林・若葉
私立	P L 学園	常德・ふれんど・梅の里・みどり

表 14：北部ブロック内市立施設の棟別概要

[富田林幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
12	S58	S-1F	—	—	遊戯室・職員室
13	S58	S-2F	7	2	幼児教育センター

[新堂幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
1	S38	W-1F	—	—	教具室
3	S43	W-1F	—	—	遊戯室
7	S51	R-2F	6	2	職員室

[喜志幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
6	S51	S-2F	4	2	遊戯室・職員室

[喜志西幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
1	S55	S-2F	3	2	遊戯室・職員室

[富田林保育園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
—	H2	S-2F	5	5	遊戯室・職員室・調理室

[若葉保育園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
—	S44	S-1F	4	4	事務室
—	H15	S-1F	2	2	遊戯室・調理室
—	H15	S-1F	1	1	

(参考：以下同様) S：鉄骨造 W：木造 R：鉄筋コンクリート造

(2) 南東部ブロック [川西、錦郡、大伴、彼方、東条小学校区]

①現状

- ・南東部ブロックには市立幼稚園 6 園（うち 2 園は休園中）、市立保育所 2 園のほか、私立幼稚園 1 園が立地します。
- ・施設の利用状況としては、すべての幼稚園に、保育室から転用した他用途室が複数あります。休園中の 2 園は倉庫として利用されていますが、耐震性が確保されていません。保育所については保育室を転用した他用途室はありません。
- ・市立幼稚園の利用人数は安定していますがその数は少なく、休園している 2 園については、今後回復する見込みはありません。
- ・彼方幼稚園はその立地が土砂災害警戒区域に含まれています。
- ・平成 31 年度より、私立大谷幼稚園が現在の寺池台から錦織の大学敷地内に移転し、幼保連携型認定こども園に移行する予定です。

表 15：南東部ブロック内の教育・保育施設

	幼稚園	保育所
市立	大伴・彼方・錦郡・川西	彼方・大伴
私立	しろがね	

*他に板持・東条幼稚園が休園中

表 16：南東部ブロック内市立施設の棟別概要

[大伴幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
5	S41	S-1F	—	—	倉庫
6	S51	S-2F	5	2	遊戯室・職員室

[板持幼稚園] (休園中)

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
7	S57	S-2F	4	0	

[彼方幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
3	S55	S-2F	3	2	遊戯室・職員室

[錦郡幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
5	S54	S-2F	3	2	遊戯室・職員室

[川西幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
5	S59	S-2F	5	2	遊戯室・職員室

[東条幼稚園] (休園中)

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
2	S49	S-2F	2	0	

[彼方保育園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
—	S46	S-1F	1	1	遊戯室
—	S56	S-1F	—	—	事務室
—	S45	S-1F	3	3	
—	H13	S-1F	2	2	調理室

[大伴保育園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
—	S42	S-1F	3	3	事務室・調理室
—	S47	S-1F	2	2	
—	H4	S-1F	1	1	

(3) 金剛ブロック [高辺台、久野喜台、寺池台、伏山台小学校区]

①現状

- ・金剛ブロックには市立幼稚園 2 園、市立保育所 1 園のほか、私立幼稚園 2 園、民間保育所 4 園が立地します。
- ・施設の利用状況としては、2 幼稚園とも、保育室から他の用途に転用した部屋が複数あります。青葉丘幼稚園の 1 室は第 2 幼児教育センターとして利用され一部は老人憩いの家に転用されています。保育所については保育室を転用した他用途室はありません。
- ・市立幼稚園の利用は減少傾向が見られます。伏山台幼稚園は、平成 26 年度 4 歳児が 7 人となりましたが、28 年度は 4 歳児 17 人、5 歳児 16 人と回復しています。しかしこれは近隣の戸建中心の住宅開発に伴うものと考えられます。
- ・ブロック内に UR 賃貸住宅があり、交通利便性も高いことなどから、住民の異動が市内では活発な地域と考えられ、保育ニーズが比較的高い地区と言えます。
- ・金剛保育園は、元は第 1、第 2 の 2 つ保育園が合体した園であり、認可定員で 240 人という大規模園です。西側園舎は昭和 44 年建設で市立保育園でも最も古い建物であることから老朽化が進んでいます。
- ・平成 30 年度末で、私立大谷幼稚園が東南部ブロックへ移転の予定です。

表 17：金剛ブロック内の教育・保育施設

	幼稚園	保育所
市立	伏山台・青葉丘	金剛
私立	芸大附属金剛・大谷	菊水・葛城・ともっち・寺池台

表 18：金剛ブロック内市立施設の棟別概要

[伏山台幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
1	S52	S-2F	5	2	遊戯室・職員室
2	S53	S-1F	—	—	会議室

[青葉丘幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
1	S11	W-1F	—	—	職員室
2-1	S45	S-1F	2	0	
2-2	S45	S-1F	3	2	
3	S48	S-1F	1	0	
5	S11	W-1F	—	—	遊戯室
7	S51	S-1F	—	—	幼児教育センター

[金剛保育園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
—	S44	S-1F	4	4	事務室
—	H14	R-2F	8	8	遊戯室・調理室

(4) 金剛東ブロック [藤沢台、向陽台、小金台小学校区]

①現状

- ・金剛東ブロックには市立幼稚園 1 園、市立保育所 1 園のほか、私立幼稚園 2 園、民間保育所 1 園が立地します。
- ・施設の利用状況としては、幼稚園には保育室から転用した他用途室が複数あります。保育所については保育室を転用した他用途室はありません。
- ・津々山台幼稚園は市立で唯一、各年齢 2 クラス編制となっています。また、私立幼稚園 2 園は定員に近い入園者がいます。
- ・金剛東保育園、富貴の里保育園ともに、毎年度入園希望が多く寄せられ、希望がかなわず第 2 希望以降の保育所利用や入所待機が見られます。
- ・地域内で戸建て中心の住宅開発が進められており、数年間は人口が維持されると考えられます。

表 19：金剛東ブロック内の教育・保育施設

	幼稚園	保育所
市立	津々山台	金剛東
私立	東金剛・平成	富貴の里

表 20：金剛東ブロック内市立施設の棟別概要

[津々山台幼稚園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
1	H5	S-1F	5	4	
2	H5	S-1F	—	—	遊戯室・職員室
3	H6	S-1F	1	0	

[金剛東保育園]

棟	建築	構造	保有保育室	利用保育室	その他
—	H5	R-1F	6	6	遊戯室・事務室・調理室

(参考) 認定こども園の運営形態

一体化施設（幼保連携型認定こども園）は幼稚園利用（3～5歳児）と保育所利用（0～5歳児）の機能を併せ持つ施設として運営し、幼稚園と保育所が連携しながら教育・保育を一体的に行う機能を整えるとともに、各年齢に応じた教育・保育を実践します。

また、基本的には認定区分に応じた保育時間を適用するとともに、3歳児以上の幼児については、幼稚園利用と保育所利用のいずれの児童にも、家庭の状況にかかわらず共通した教育・保育を実践する時間帯を設け、共通カリキュラムや接続カリキュラムを実践することで、より質の高い教育・保育を提供します。

それぞれのニーズに応じて、登降園の時間帯や方法の違いや昼食（幼稚園は弁当持参、保育所は自園調理給食）など、現行の幼稚園と保育所の違いを踏まえた運営を行います。